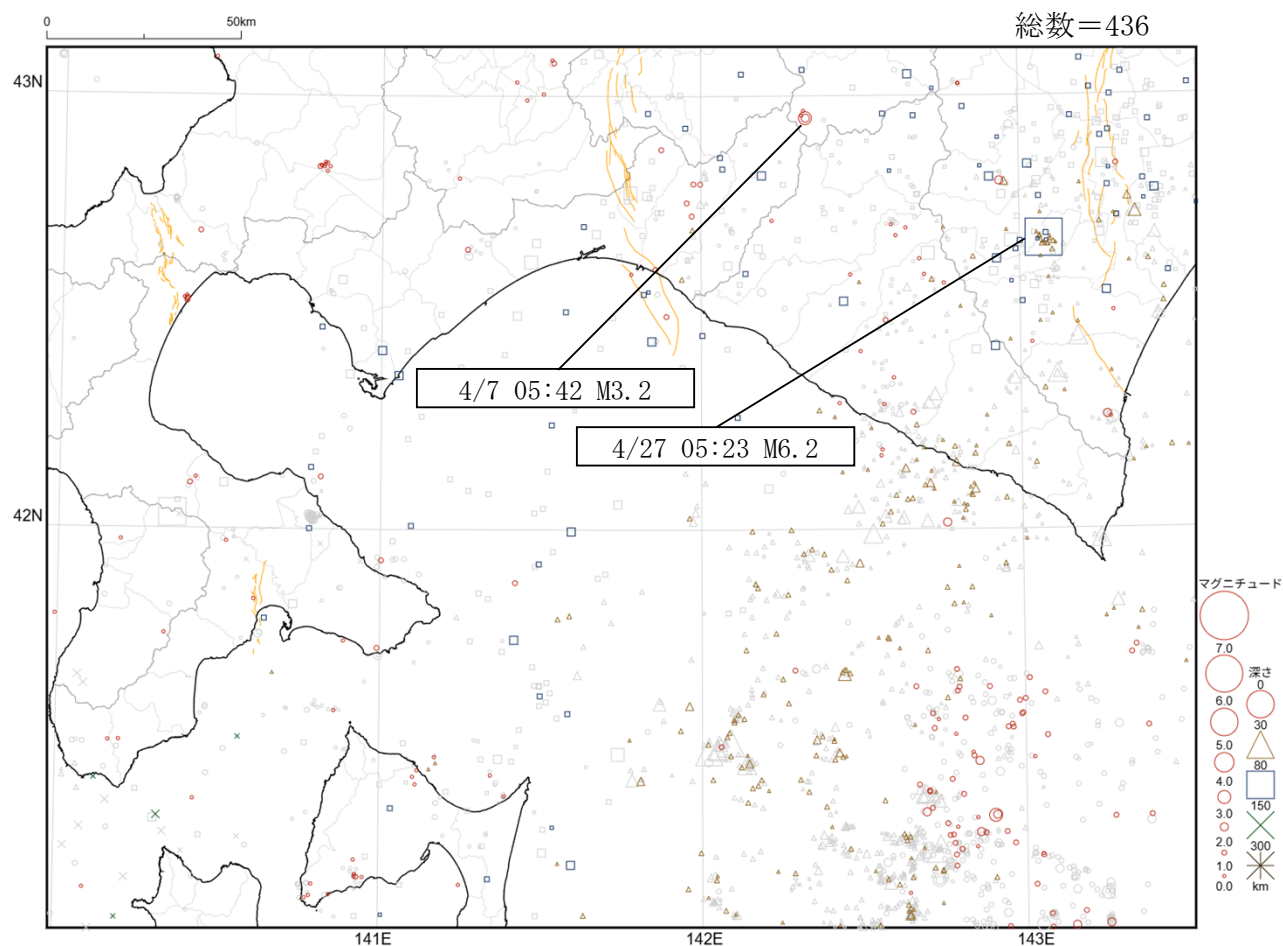


胆振・日高地方の地震活動図

2026年4月

室蘭地方気象台

震央分布図



- ・ 図中橙色の線は、地震調査研究推進本部が地震発生可能性の長期的な確率評価を行った主要活断層を表します。
- ・ 過去の地震と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。
- ・ 本資料中の地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政区・海岸線）』を使用しています（承認番号平29情使、第798号）。

地震概況（2026年4月）

この期間、胆振・日高地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は6回（3月は7回）で主な地震は以下のとおりです（「胆振・日高地方で震度1以上を観測した地震の表」参照）。

20日16時52分、三陸沖の地震（M7.7、深さ19km、震央分布図の範囲外）により、新冠町で震度4を観測したほか、胆振・日高地方の17市町で震度3～2を観測しました。

27日05時23分、十勝地方南部の地震（M6.2、深さ83km）により、新冠町で震度5弱を観測、日高町、新ひだか町、浦河町、白老町、厚真町、安平町、むかわ町で震度4を観測したほか、胆振・日高地方の10市町で震度3～2を観測しました。

これらの地震に関わる津波や被害状況については「別紙」を参照してください。

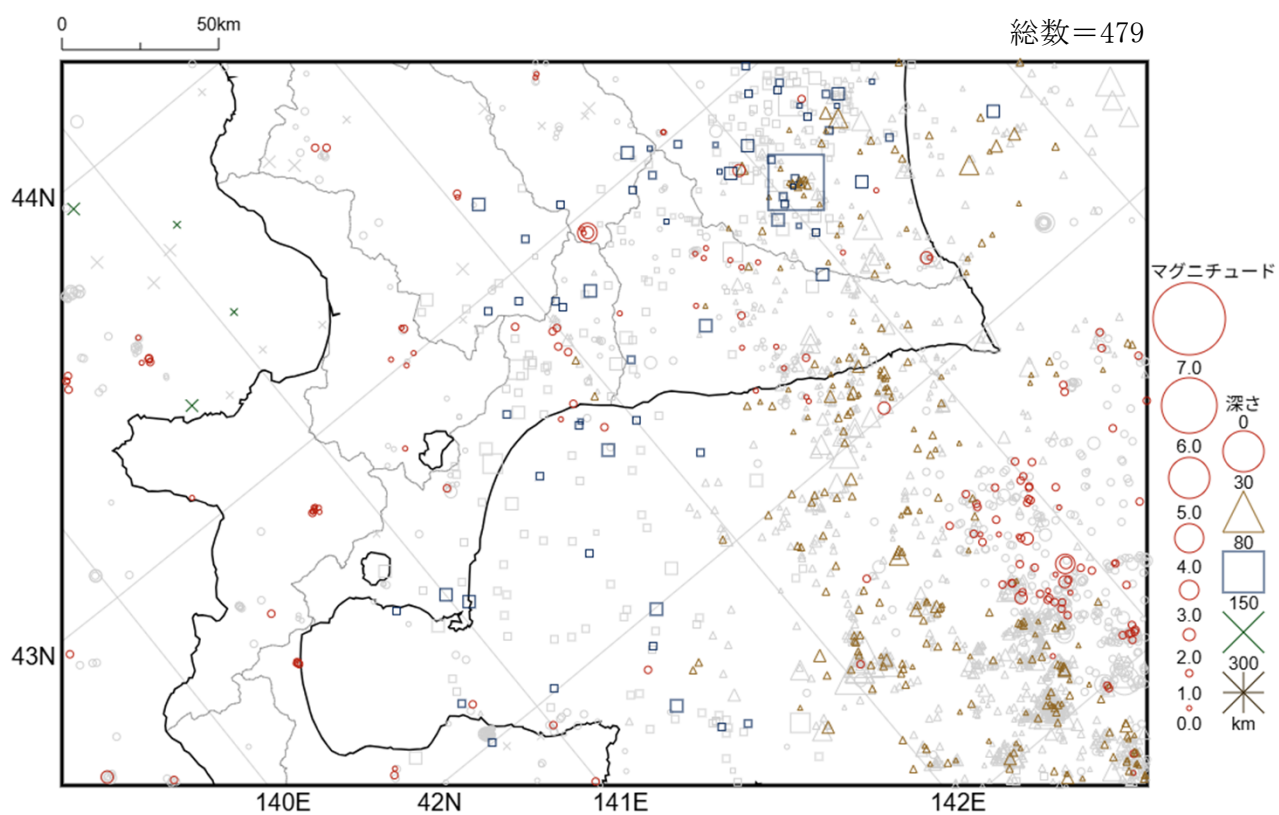
この活動図は、室蘭地方気象台のホームページに掲載しています。

<https://www.data.jma.go.jp/muroran/>

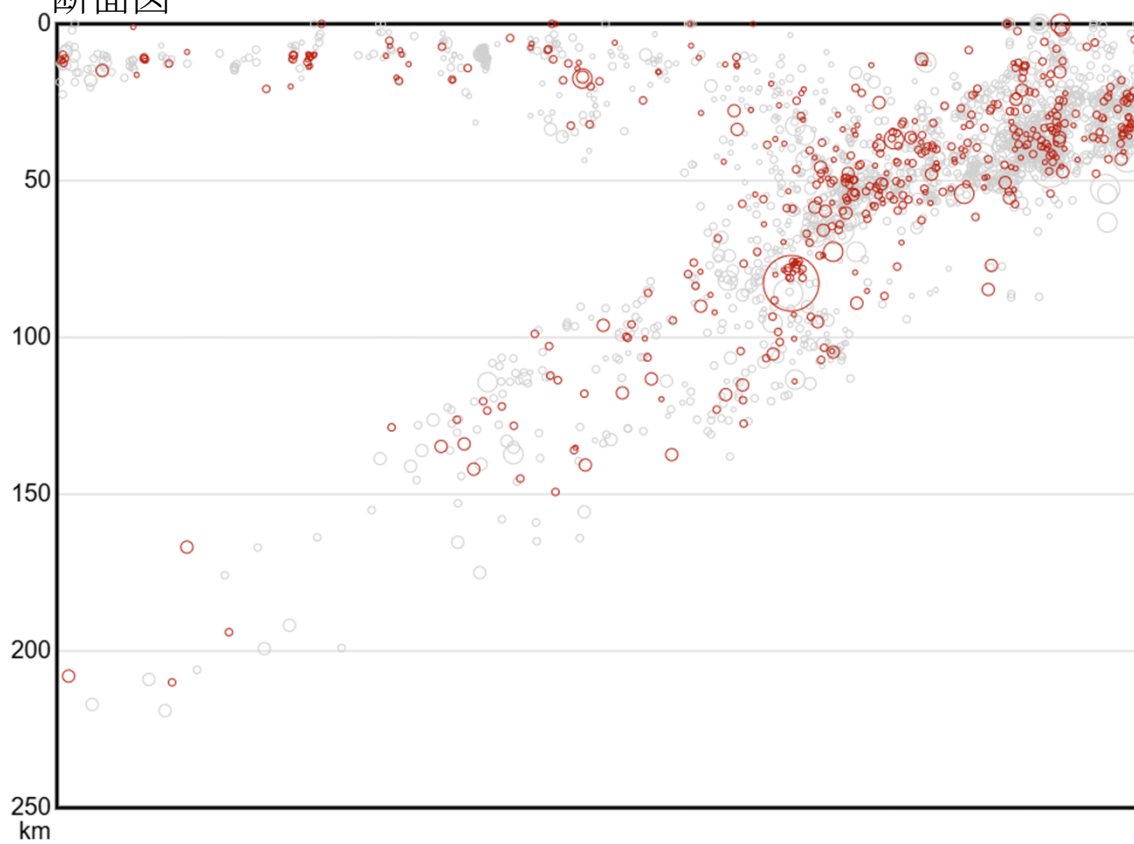
この資料に関する問い合わせ先 室蘭地方気象台 TEL 0143-22-4249

2026年4月

震央分布図



断面図

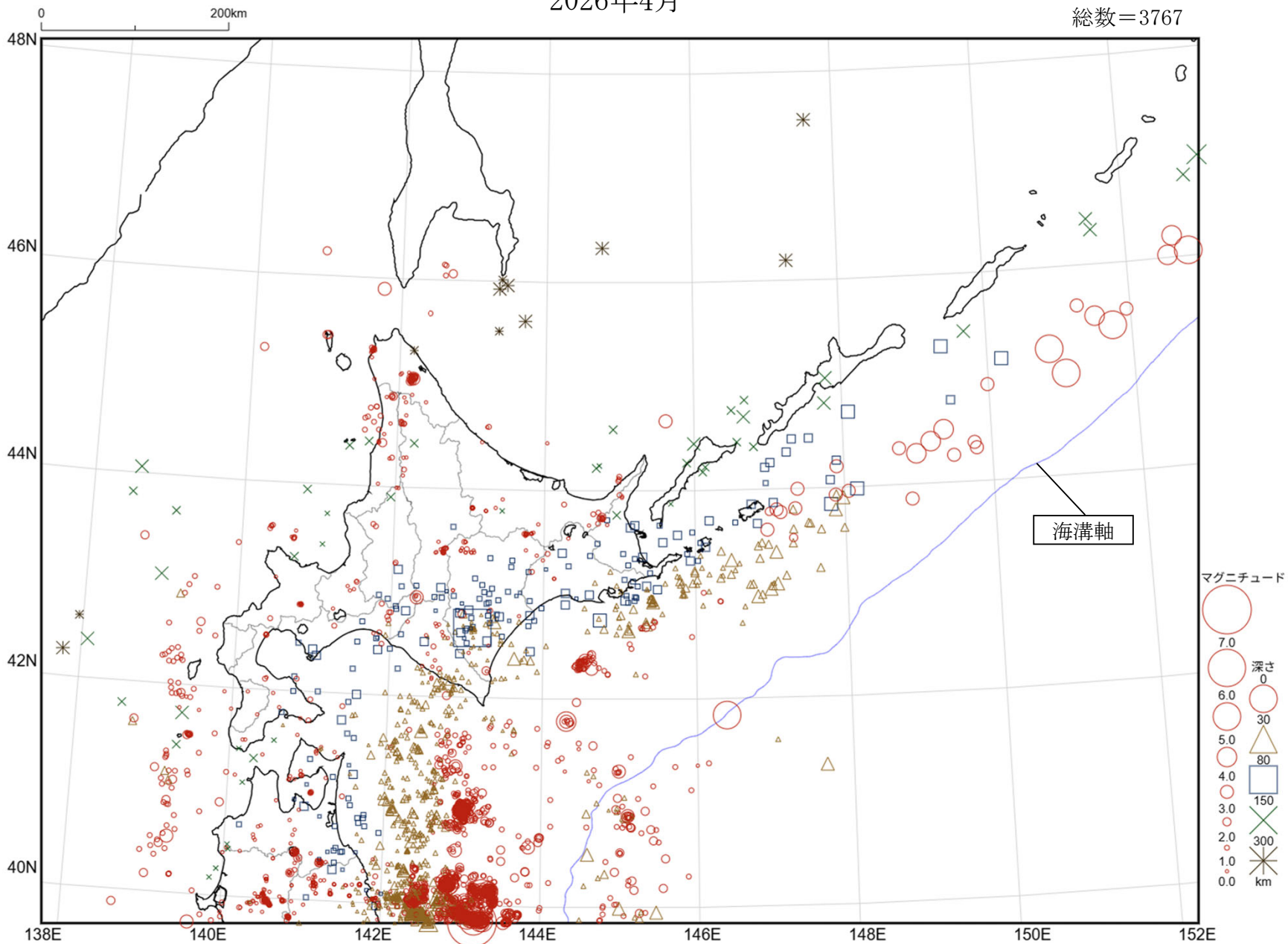


北海道の地震活動図

震央分布図

2026年4月

総数=3767



胆振・日高地方で震度1以上を観測した地震の表 (2026年4月)

	年 月 日 地方	時 分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯 (N)	東経 (E)	深さ (km)	規模 (M)
1	2026年 4月 7日 日高地方	05時42分 震度 1	上川地方南部 平取町振内*(08)	42° 56.9' N	142° 19.7' E	17 km	M3.2
2	2026年 4月 20日 日高地方 胆振地方	16時52分 震度 4 震度 3 震度 2 震度 1 震度 3 震度 2 震度 1	三陸沖 新冠町北星町*(35) 平取町振内*(25) 新ひだか町静内山手町(28) 新ひだか町静内御幸町*(26) 浦河町潮見(26) 浦河町築地*(26) 様似町栄町*(30) 日高地方日高町日高*(17) 日高地方日高町門別*(24) 平取町本町*(18) 新ひだか町静内御園(22) 新ひだか町三石旭町*(23) 新ひだか町静内農屋*(16) 浦河町野深(24) えりも町えりも岬*(19) 平取町仁世宇(13) えりも町本町(12) えりも町目黒*(11) 壮瞥町滝之町*(25) 室蘭市寿町*(30) 苫小牧市末広町(26) 苫小牧市旭町*(26) 白老町竹浦(26) 厚真町鹿沼(29) 厚真町京町*(28) 安平町早来北進*(30) むかわ町松風*(31) むかわ町穂別*(25) 胆振伊達市梅本(24) 胆振伊達市末永町*(23) 胆振伊達市大滝区本町*(19) 豊浦町大岸*(16) 洞爺湖町栄町*(21) 洞爺湖町洞爺町*(23) 室蘭市山手町(16) 登別市桜木町*(23) 白老町緑丘*(20) 安平町追分柏が丘*(21) 登別市鉱山(13)	39° 50.5' N	143° 09.4' E	19 km	M7.7
3	2026年 4月 20日 胆振地方	16時56分 震度 1	三陸沖 苫小牧市末広町(10) 白老町竹浦(08) 厚真町鹿沼(05)	39° 35.8' N	143° 16.4' E	10 km	M5.1
4	2026年 4月 20日 胆振地方 日高地方	17時32分 震度 1 震度 1	三陸沖 三陸沖 安平町早来北進*(05) 浦河町潮見(05)	39° 34.5' N 39° 34.7' N	143° 15.3' E 143° 13.8' E	14 km 13 km	M5.5 ☆ M5.5 ☆
5	2026年 4月 22日 胆振地方 日高地方	03時44分 震度 1 震度 1	三陸沖 厚真町鹿沼(06) 様似町栄町*(08)	40° 07.4' N	143° 16.1' E	17 km	M5.6
6	2026年 4月 27日 日高地方 胆振地方	05時23分 震度 5弱 震度 4 震度 3 震度 2 震度 4 震度 3 震度 2	十勝地方南部 新冠町北星町*(48) 日高地方日高町門別*(38) 新ひだか町静内山手町(40) 新ひだか町静内御園(37) 新ひだか町静内御幸町*(38) 新ひだか町三石旭町*(36) 浦河町野深(39) 浦河町潮見(39) 浦河町築地*(40) 日高地方日高町日高*(30) 平取町仁世宇(27) 平取町本町*(33) 新ひだか町静内農屋*(34) 様似町栄町*(31) えりも町目黒*(26) えりも町えりも岬*(25) えりも町本町(20) 白老町竹浦(38) 厚真町鹿沼(44) 厚真町京町*(40) 安平町早来北進*(42) 安平町追分柏が丘*(35) むかわ町穂別*(39) 胆振伊達市大滝区本町*(28) 室蘭市寿町*(31) 苫小牧市末広町(33) 苫小牧市旭町*(32) 登別市桜木町*(29) 白老町緑丘*(30) 胆振伊達市梅本(23) 胆振伊達市末永町*(23) 豊浦町大岸*(15) 壮瞥町滝之町*(21) 洞爺湖町栄町*(19) 洞爺湖町洞爺町*(23) 室蘭市山手町(16) 登別市鉱山(23)	42° 40.2' N	143° 04.5' E	83 km	M6.2

☆ 近接した地域ではほぼ同時刻に発生した地震であるため、震度の分離ができないことを示します。地震は規模順に並べています。

* のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。
() 内の数値は0.1単位の詳細な震度(計測震度)の小数点を省略して表しています。

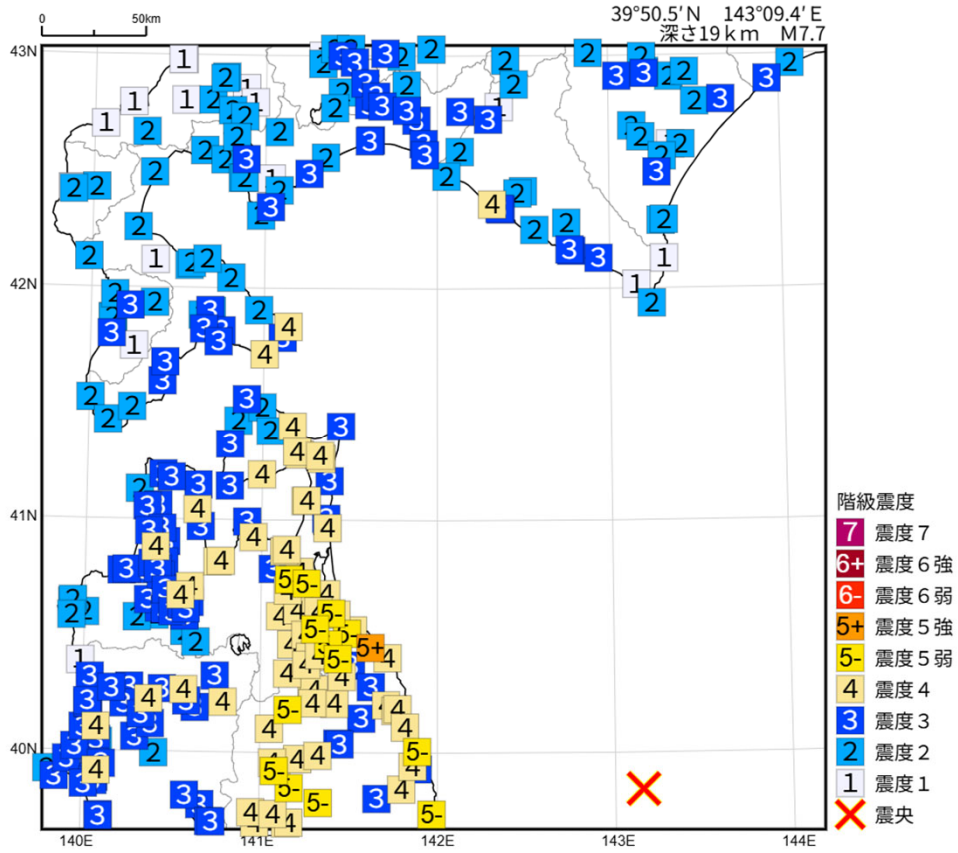
計測震度と震度階級の関係

計測震度	~0.4	0.5~1.4	1.5~2.4	2.5~3.4	3.5~4.4	4.5~4.9	5.0~5.4	5.5~5.9	6.0~6.4	6.5~
震度階級	0	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7

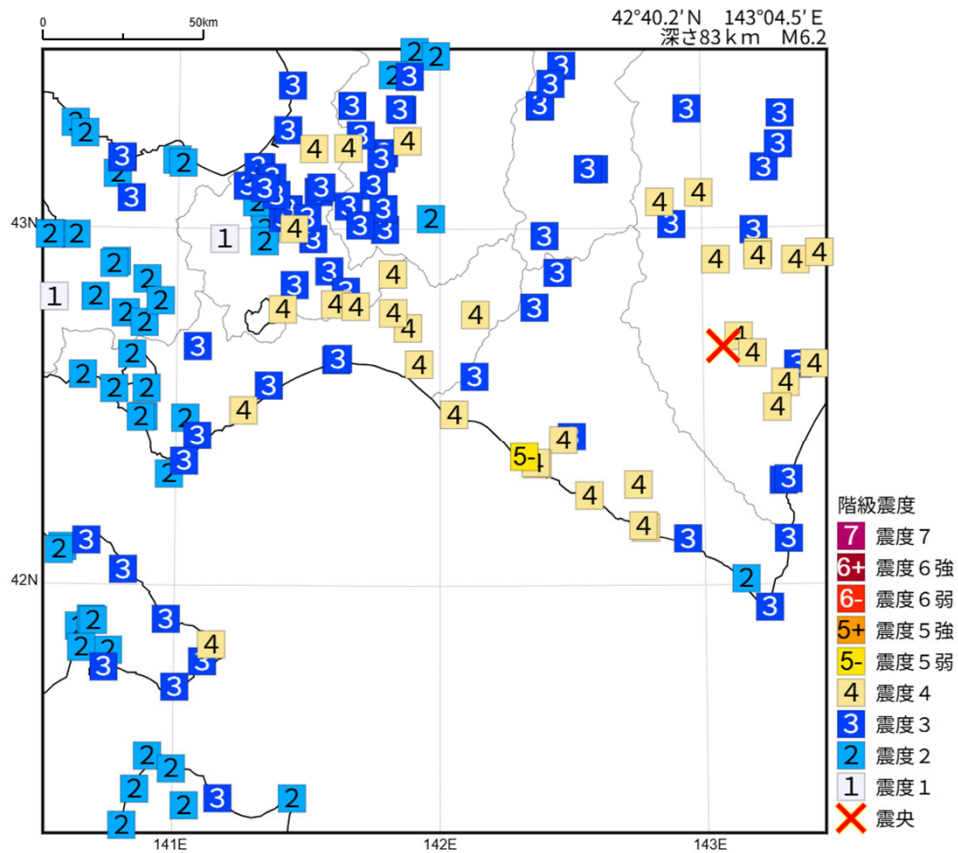
本資料の利用にあたって

- ・本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
- ・本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを使用しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

2026年 4月20日 16時52分 三陸沖の地震の震度分布図



2026年 4月27日 05時23分 十勝地方南部の地震の震度分布図



令和 8 年 4 月 20 日に発生した三陸沖の地震について (北海道内への影響)

概要

令和 8 年 4 月 20 日 16 時 52 分に三陸沖で発生した地震 (M7.7、深さ 19 km) により、青森県階上町で震度 5 強を観測したほか、北海道で震度 4~1 を観測しました。この地震により北海道太平洋沿岸中部、青森県太平洋沿岸、岩手県に津波警報を、北海道太平洋沿岸東部、北海道太平洋沿岸西部、青森県日本海沿岸、宮城県、福島県に津波注意報を発表し、岩手県の久慈港で 79cm、北海道の浦河で 39cm、えりも町庶野で 0.3m、白老港で 22cm、十勝港で 20cm、苫小牧東港で 19cm などの津波を観測しました (いずれも暫定値)。なお、北海道で長周期地震動階級 1 を観測しました。この地震により、北海道で負傷者 2 人の被害が生じました (令和 8 年 4 月 28 日 17 時 00 分現在、総務省消防庁による)。また、20 日 19 時 30 分に北海道・三陸沖後発地震注意情報を発表しました。

津波注意報の発表状況 (道内)

	北海道太平洋沿岸東部	北海道太平洋沿岸中部	北海道太平洋沿岸西部
4/20 16:55	津波注意報	津波警報	津波注意報
4/20 20:15	津波注意報	津波注意報	津波注意報
4/20 23:45	解除	解除	解除

津波警報・注意報の種類と発表基準

	予想される高さ		
大津波警報	3m	~	
津波警報	1m	~	3m
津波注意報	20cm	~	1m

北海道の津波予報区



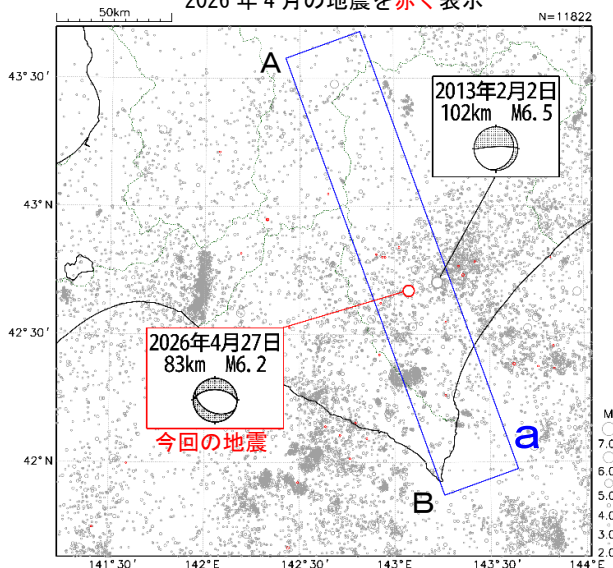
津波の観測状況 (暫定値)



※データは暫定値であり、今後変更されることがあります。

4月27日 十勝地方南部の地震

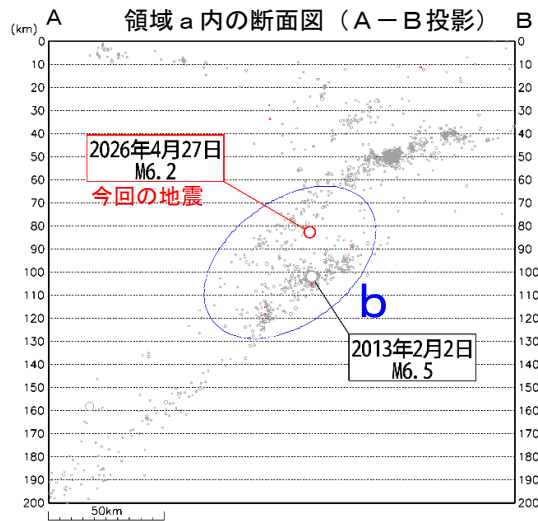
震央分布図
(2001年10月1日~2026年4月30日、
深さ0~200km、 $M \geq 2.0$)
2026年4月の地震を赤く表示



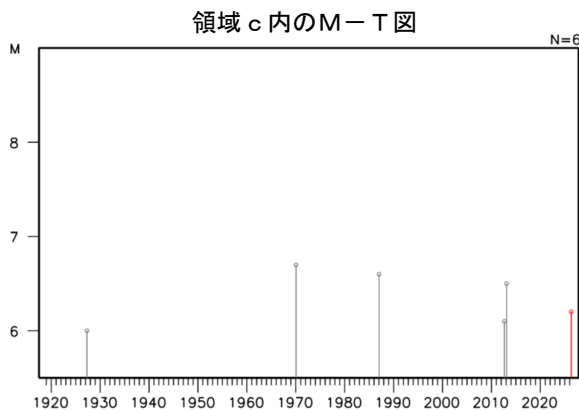
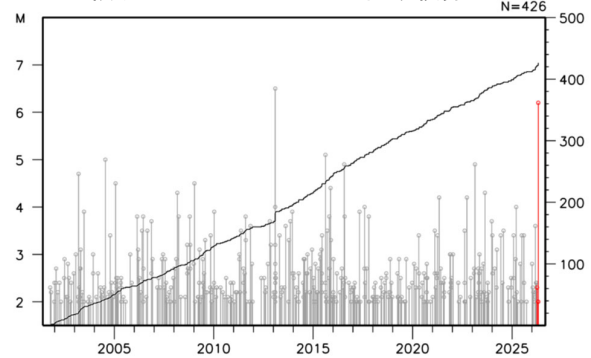
2026年4月27日05時23分に十勝地方南部の深さ83kmで $M 6.2$ の地震(最大震度5強)が発生した。この地震は太平洋プレート内部で発生した。発震機構は北北東-南南西方向に張力軸を持つ型である。この地震により、北海道で負傷者1人の被害が生じた(2026年5月7日14時00分現在、総務省消防庁による)。

2001年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近(領域b)では、 $M 5.0$ 以上の地震が今回の地震を含めて4回発生している。2013年2月2日の $M 6.5$ の地震(最大震度5強)では、負傷者14人、住家被害1棟の被害が生じた(総務省消防庁による)。

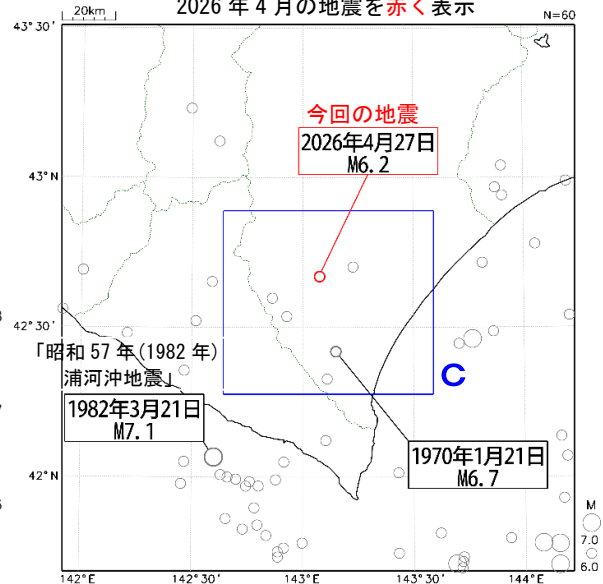
1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域c)では、 $M 6.0$ 以上の地震が時々発生しており、1970年1月21日の $M 6.7$ の地震(最大震度5)では、負傷者32人、住家全壊2棟などの被害が生じた(被害は「日本被害地震総覧」による)。



領域b内のM-T図及び回数積算図



震央分布図
(1919年1月1日~2026年4月30日、
深さ0~200km、 $M \geq 6.0$)
2026年4月の地震を赤く表示



【防災メモ】

～地震活動図利用の手引き～

「胆振・日高地方の地震活動図」は、胆振・日高地方とその周辺で発生した地震の状況を月（または年）ごとにとりまとめた資料です。月間の資料は毎月 10 日頃、年間の資料は毎年 1 月に発表しています。

1. 構成について

地震活動図は、「震央分布図」、「地震概況」、「断面図」、「北海道の震央分布図」、「震度 1 以上を観測した地震の表」、「震度分布図」、「主な地震の解説」、「防災メモ」で構成しています。

2. 各資料の見方

(1) 震央分布図

「震央分布図」は、当該期間中に発生し、震源が求めた地震の震央（震源の直上の地点）を地図上に記号で表示した図です（図 1）。記号の種類で震源の深さを、大きさに地震の規模を示すマグニチュード（以下、Mと記載）をそれぞれ表します。震央分布図内の地震で以下の基準①を満たすものには、その地震の発生日時、Mを記載した吹き出しをつけています。

なお、地図上の橙色の線は、地震調査研究推進本部による主要活断層を表します。また、過去の地震活動と比較するため、前 3 ヶ月間の震央の記号を灰色で表示しています。これらを踏まえ、地震活動の活発さや、地震が珍しい場所で発生しているかなどに注目してご覧ください。

【基準①】

- ア 胆振・日高地方の沿岸に大津波警報・津波警報・津波注意報を発表
- イ 胆振・日高地方の震度観測点で震度 1 以上を観測
- ウ 上記以外で注目すべき地震活動

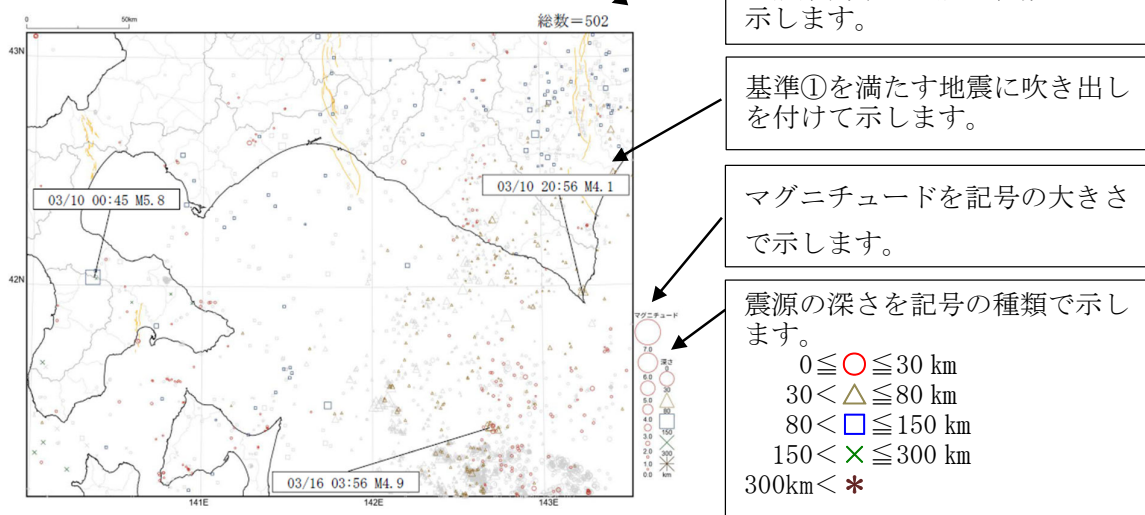


図 1 震央分布図の例

※震度 1 に満たない（体に感じない）微小な地震も含め多数発生している様子がわかります。

(2) 地震概況

胆振・日高地方の震度観測点で震度 1 以上を観測した地震の回数、及び基準①を満たす地震の概要（発生日時、震央地名（地震の発生した地域名）、M、深さ、胆振・日高地方で観測した震度、大津波警報・津波警報・注意報の発表状況など）を記述します。

なお、被害が生じた地震、大津波警報・津波警報・津波注意報を発表した地震、胆振・日高地方で観測した震度の大きい地震など、社会的に注目度の大きい地震を優先して記述します。

(3) 断面図

「断面図」は、震央分布図（図 2 上）に表示された範囲の震源を鉛直断面上に投影し、震源の鉛直分布を示した図です（図 2 下）。ここでの震央分布図は、太平洋プレートの沈み込む様子がわかるように向きを変えて表示しています。また、前 3 ヶ月間の地震の記号を灰色で表示しています。

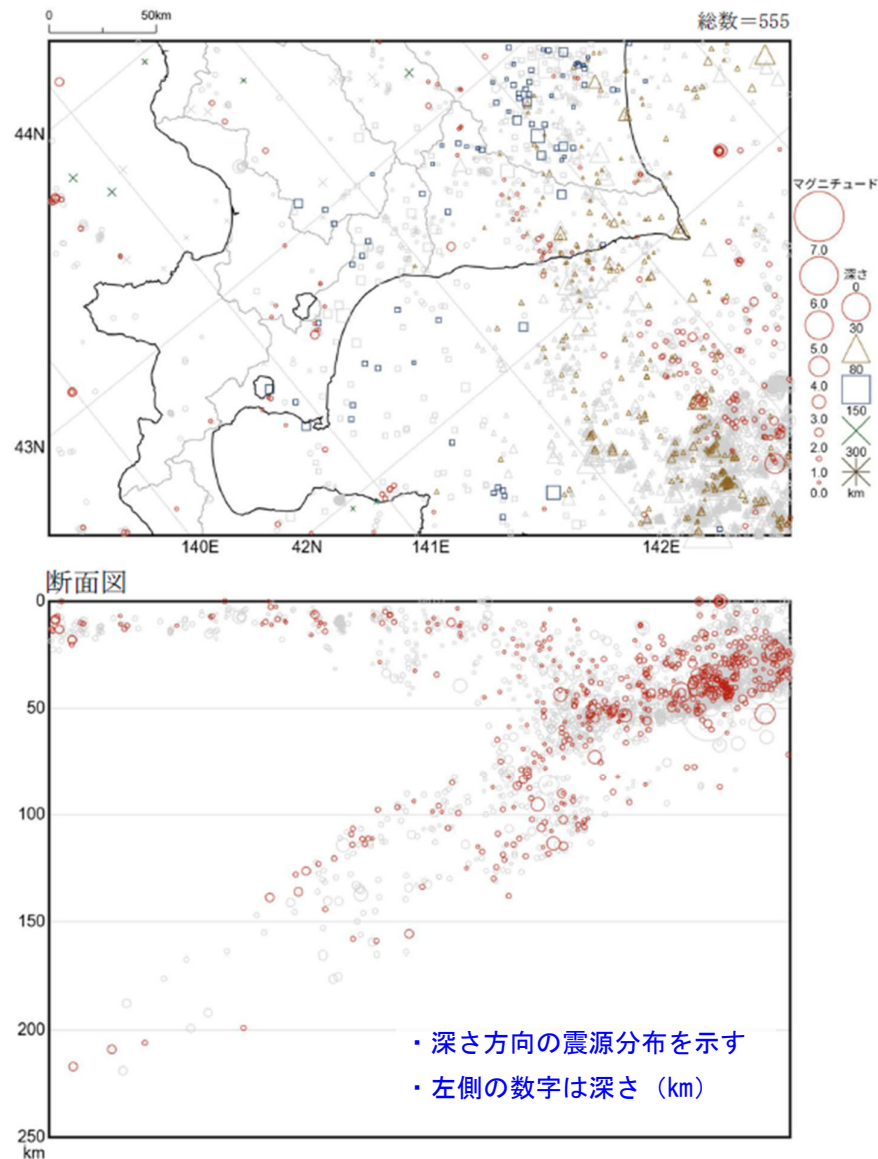


表 1 胆振・日高地方で震度 1 以上を観測した地震の表の例

	年月日 地方	時分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯 (N)	東経 (E)	深さ (km)	規模 (M)
1	2026年 3月 8日 胆振地方	22時17分 震度 1	三陸沖 室蘭市寿町*(08)	39° 24.3' N	143° 13.6' E	17km	M6.1
2	2026年 3月10日 胆振地方	00時45分 震度 2	檜山地方 胆振伊達市末永町*(15) 洞爺湖洞爺町*(17) 室蘭市寿町*(16) 苫小牧市旭町*(15) 白老町竹浦(15) 厚真町鹿沼(15) 安平町追分柏が丘*(17) むかわ町松風*(19) むかわ町穂別*(15)	42° 02.1' N	140° 21.1' E	145km	M5.8
		震度 1	胆振伊達市梅本(12) 壮瞥町滝之町*(14) 室蘭市山手町(11) 苫小牧市末広町(14) 登別市鑑山(07) 登別市桜木町*(12) 厚真町京町*(14) 安平町早来北進*(13)				
	日高地方	震度 2	新冠町北星町*(17) 新ひだか町静内山手町(17) 新ひだか町静内御園(17) 新ひだか町静内御幸町*(15) 新ひだか町三石旭町*(16) 浦河町潮見(19) 浦河町築地*(17) 様似町栄町*(15)				
		震度 1	日高地方日高町日高*(08) 日高地方日高町門別*(11) 平取町本町*(09) 平取町振内*(14) 新ひだか町静内農屋*(09) 浦河町野深(12) えりも町目黒*(12) えりも町えりも岬*(13)				

表 2 計測震度と震度階級の対応表

計測震度	~0.4	0.5~1.4	1.5~2.4	2.5~3.4	3.5~4.4	4.5~4.9	5.0~5.4	5.5~5.9	6.0~6.4	6.5~
震度階級	0	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7

(6) 震度分布図

胆振・日高地方の震度観測点で震度 1 以上を観測した地震の震度分布図です (図 4)。なお、震度 1 以上を観測した地震が多い場合には、胆振・日高地方で観測した震度の大きい地震を優先して掲載します。

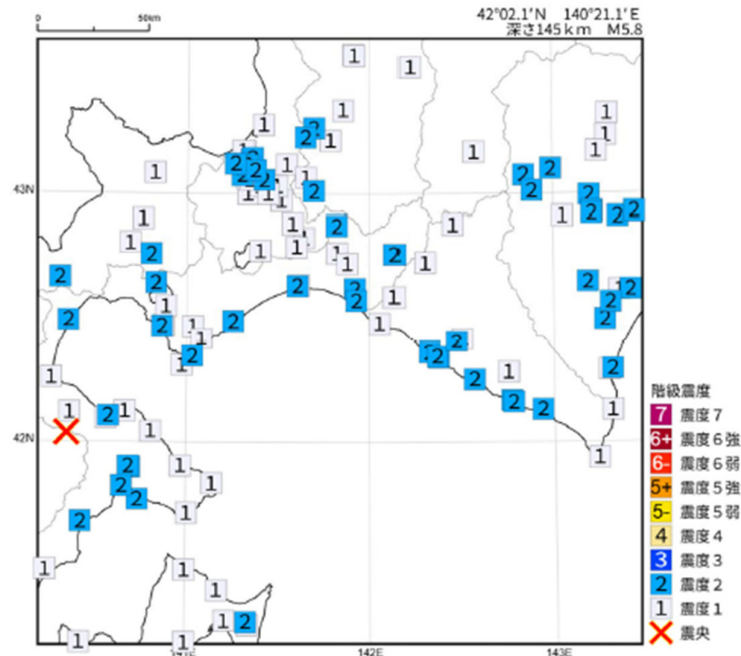


図 4 震度分布図の例

(7) 主な地震の解説

以下の基準②を満たす地震が発生した場合は、その地震について「主な地震の解説」のページの中で詳しく解説します。ここでは過去に付近で発生した地震についても取り上げ、その概要や被害などを記載しています。社会的に影響の大きい地震を調べる際などにご活用ください。

【基準②】

- ア 胆振・日高地方の沿岸に大津波警報・津波警報・津波注意報を発表
- イ 胆振・日高地方の震度観測点で震度4以上を観測
- ウ 上記以外で注目すべき地震活動

○「主な地震の解説」に掲載する図の例について

a. 震央分布図 (図5)

基本的な見方は「(1) 震央分布図」のとおりですが、ここでは震源の深さに関係なく同じ色の記号を使用し、当該期間中の地震を赤で表示します。多くは図5にある青枠のように領域を限定し、以降の図で領域内の地震について詳しく見られるようになっています。

b. 断面図 (図6)

地震活動を理解するためには、震源の分布を詳しく観察することが必要です。断面図は震央分布図で設定した領域中の震源の鉛直方向の分布を見るための図で、震央分布図と併用することで震源の空間的な分布を把握することができます。

c. 地震活動経過図及び回数積算図 (図7)

いつ、どんな規模の地震が発生したかを把握するための図が地震活動経過図で、縦棒のついた記号で1つの地震の発生時間(横軸)とM(左縦軸)を示しています。回数積算図は地震総数の推移を見るためのグラフで、図中の折れ線がそれにあたり、右縦軸が地震総数の数値を表します。

※ 津波が観測された場合などには、別形式の図を掲載することがあります。

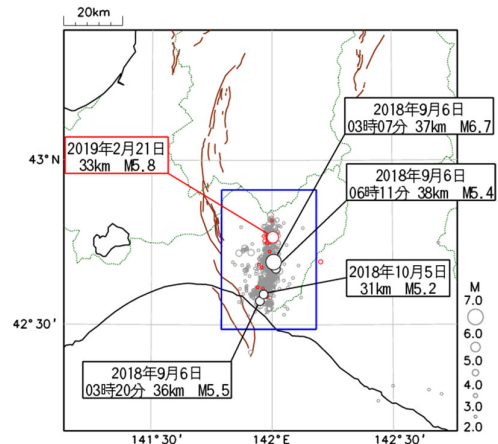


図5 震央分布図の例

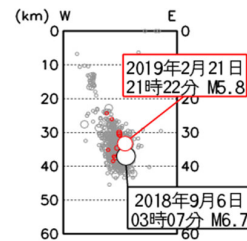


図6 断面図の例

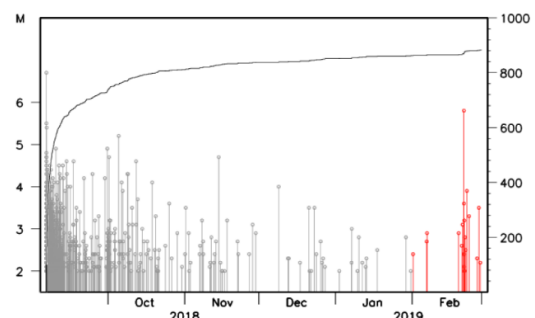


図7 地震活動経過図及び回数積算図の例

(8) 防災メモ

「防災メモ」では、地震・津波の基礎知識や気象庁が発表する地震・津波に関する防災情報など、様々なテーマについて紹介しています。覚えておいていただきたいことを分かりやすく解説します

ので、ぜひご一読ください。また、職場やご家庭などで回覧して身近にいる方と一緒に防災知識を深めていただければと思います。

3. 地震活動図で使われる用語について

(1) 「震源」と「セントロイド」の違い

気象庁が普段発表している「震源」とは、地震の断層の破壊が始まった地点を示したものです。一方で、セントロイドの位置とは、地震の断層運動を1点で代表させた場合のその位置を表しています。これは気象庁が普段発表している「震源」とは意味が異なるもので、震源とセントロイドの位置は普通一致しません(図8)。地震観測網から離れた沖合海域などで発生した地震では、震源の深さを十分な精度で求められない場合があり、そのような地震を地震概況で取り上げる場合にセントロイドの深さを記載することがあります(データの一貫性を確保するため、震度1以上を観測した地震の表や震度分布図などでは通常の計算結果による震源の深さを記載します)。

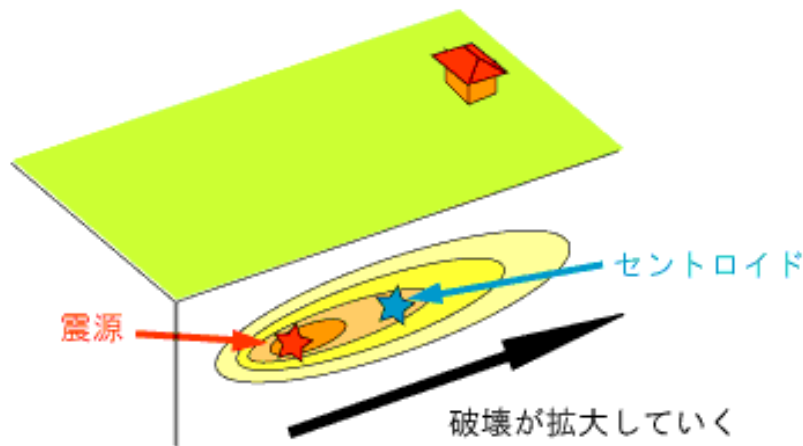


図8 震源とセントロイドの模式図

(2) CMT 解

前述のセントロイドは、CMT (Centroid Moment Tensor) 解析により求められます。観測された地震波形を用い、セントロイドの位置と時刻、規模(※)、及び発震機構(メカニズム)を同時に決定する解析法で、これら解析結果をまとめてCMT解と呼んでいます。なお、計算には周期の長い地震波形を利用するため、地震の規模がある程度大きいものでないと解析できません。

※モーメント・マグニチュード

地震による岩盤のずれの規模を基に算出されるマグニチュード。
地震波形から算出している通常のマグニチュード(気象庁マグニチュード)とは異なる。

これらの用語について、詳しくは以下のページ(気象庁ホームページ)をご覧ください。

https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/mech/kaisetu/cmt_kaisetu.html